

第 35 号 <令和 7 年 3 月 発刊>

目 次

会長あいさつ…………… 1  
 山梨から世界を目指す  
 選手の育成と環境…………… 2  
 「部活動改革について」～その2～ …… 3  
 研修会の報告…………… 4  
 南都留支部活動報告…………… 5  
 日本スポーツ協会公認  
 スポーツ指導者表彰… 6～7  
 事業報告・事業計画…………… 8

山梨県スポーツ指導者協議会

会 報



令和 6 年度 山梨県スポーツ指導者協議会特別研修会 (R6.11.25)

積極的に支部活動の展開を



会 長 渡 邊 悟  
(陸上競技コーチ4)

会員の皆様には日頃より、地域における研修会の実施やクラブの指導等にご活躍されていることと思います。皆様の「ご活躍」があり、徐々にではありますが、本会の存在も浸透しつつあります。昨年もスポーツ関係団体に本会の地域別、競技別の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数等をお知らせし、各地域における活躍の場を広げていただけたよう依頼したところでございます。

地域クラブ移行検討委員会等への参画、指導者の紹介等を積極的に行い、中学生のスポーツ活動の場を確保するために、さらなる力を注いほしいと思います。

日本スポーツ協会が中心となり「国スポ」や「指導者」等の今後の在り方を検討しています。今を大切に、青少年のスポーツ活動を支えていただきたいと思います。

各支部においては、従前からの事業も内容を高めながら実施すると共に、各市町村で設置している中学校



ホームページ

# 山梨から世界を目指す

## 選手の育成と環境



山梨学院大学 水泳部 監督

神田 忠彦

二〇〇〇年のシドニーオリンピック代表の萩原智子選手を皮切りに七大会連続、延べ十一名、山梨学院大学を拠点とする選手育成を経験させていただきました。

近年では、鈴木聡美選手が二〇二四年のパリ大会に日本競泳史上女子最高年齢で出場し、四位入賞を果たしました。

山梨学院大学のプールは二十五mのプールで俗に言う短水路です。多くの選手は大学進学を機会に五十mプールの環境を求め進学をします。また小中高のジュニア選手も既に五十mの練習拠点を持っている人も少

なくありません。世界を目指す上では標準設備と当たり前に考えられています。

山梨学院大学からは萩原選手・長田選手・江原選手と三名の県内出身者がオリンピックに出場し世界と競い合いました。七十八万人と極めて少ない人口で五十mプールが無い県・大学としては極めて異例で他県に例を見ないことです。これは、私が大学で指導に携わる前段階から、県内のジュニア育成指導者がきめ細かな基本的指導を行っている証でも有り、中高生のその後を見据えた高いレベルや意識を持ち得ている証でもあります。

一方強化の評価では、指導者のコーチング手腕等が取り上げられがちですが、組織としての環境整備、支える者の研鑽、強化方針や一体感が何より大事だと思うこの頃です。

練習はとても大事ですが、それだけに頼っていては勝ち抜けません。現状の環境において、最高の協力と理解を大学からもらいただき活動が行えます。その中でも学生マネージャーの存在が非常に大きく、毎週一回、マネージャー会議を行い、担当業務や強化について活発な意見交換を交わし部全体の底上げを常に図っています。議事録も膨大な量に達します。表には現れません。『支える側の学生』が大きな力になっています。

他県では国スポを契機に素晴らしい施設が整えられ、それぞれの県の拠点として普及・育成・強化・教育を図っており、近年では災害時の避難施設にもなっております。

国スポの開催を契機に更なる県民のスポーツ振興を図るためにも、施設の改修及び新規設置を再考していただきたいと山梨県の一スポーツ指導者として願っています。



二〇三二年に国民スポーツ大会の開催が山梨県で決定されました。

# 「部活動改革について」 その2



山梨県教育庁保健体育課特別職非常勤  
地域クラブ活動総括コーディネーター  
荻野 昭彦

令和五年度に引き続き、令和六年度の「特別研修会」でも機会をいただき、最新の国や県、先進地域の情報を伝達しながら、部活動改革の理念や考え方・方向性を一人でも多くの方と共有できたらという思いで話をしました。

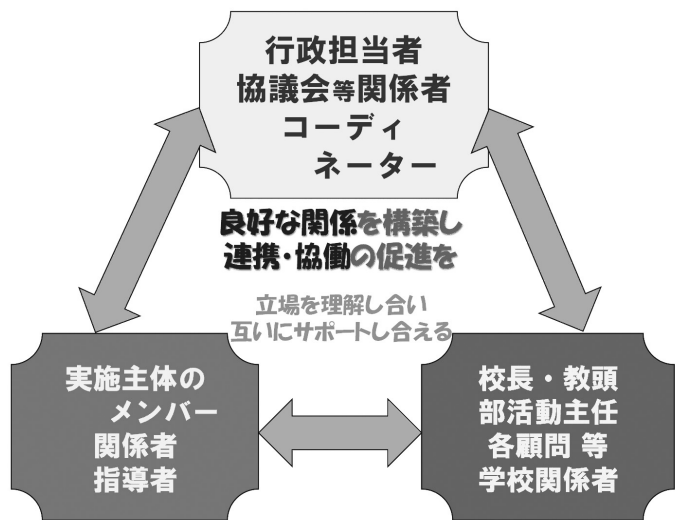
国の動向として、「実行会議」の情報を一部書き出すと、「令和八年から前期三年、令和十一年から後期三年を「改革実行期間」とすることが盛り込まれ、これから改革に取り組む地方公共団体においても、前期で地域展開（困難な場合は地域連携「コ着手あそび」）とされています。また、理

念等を的確に表すため、「地域移行」という名称は、「地域展開」に変更するといったことなどが示されました。

また、『山梨学院大学発』本県の取組の一部を紹介すると、「山梨県地域クラブ活動推進連絡会」を年三回、「市町村担当者会」を年四回開催し、「全市町村への訪問・指導助言」、七市町村で実施している「地域クラブ活動への移行の実証事業」への支援、「市町村コーディネーター研修会」の開催、「人材バンクシステムの運用・周知・効果的な活用」などがあります。

「部活動改革」を考えると、市町村における「地域クラブ活動」に関わる人たちが図のように整理することが肝要だと思っています。そして、それぞれの関係者が互いに歩み寄り、良好な関係を築きながら「連携・協働」しなくては、「新たな地域クラブ活動」は実現できないと思っています。

それぞれの市町村における関係者の連携・協働が進み、県が目標としている「令和八年度には県内全市町村で一つ以上の地域クラブ活動実施を目指す」という段階まで取組が進み、令和八年度には全市町村で一つ以上の地域クラブ活動が実施されるという目標を実現してもらえたら幸いです。



# 研修会の報告

## 「令和六年度第二回 スポーツ指導者 研修会に参加して」

笛吹支部

伊藤 博 司

(ソフトボールコーチ)



今回の研修テーマ『NO  
スポハラ』目指そうグッド  
コーチング』・『地域のス  
ポーツ振興について』に関  
心があり受講させていただ  
きました。

『NOスポハラ』目指そ  
うグッドコーチング』講  
演では、選手・保護者・指  
導者のコミュニケーション  
の重要性を改めて実感させ  
られました。

普段からコミュニケー  
ションは上手く取れている  
と思っていても、相手方の  
受取り方・感じ方で負の方  
向に進んでしまう事、また  
言葉の選択も非常に重要な

事であると考えさせられた  
講演でありました。

『地域のスポーツ振興に  
ついて』講演では、指導者  
不足による中学生・高校生  
のスポーツ人口の減少が気  
になる内容でした。

スポーツを通じた人間関  
係の構築（指導者・友達・先  
輩・後輩の親交）が時代の流  
れで大きく変動している状況  
も理解する事が出来ました。

今回の受講により、再度、  
指導者としての責任・役割  
の重要性を認識する事がで  
きとても有意義な研修とな  
りました。

## 「第二回スポーツ 指導者研修会に 参加して」

峡中支部

川 窪

(陸上競技コーチ)



本研修では、岩崎眞美先

生による「NOスポハラ」  
目指そうグッドコーチン  
グ」をテーマとした、ど  
んなことがスポハラに値  
するのか、子どもに対して  
の呼び方・態度など、普段  
あまり気にしていないこ  
とも時にはスポハラにな  
るということを思い知ら  
されました。また、この研  
修会でのグループワーク  
を通じ、スポハラを防ぐ  
ための方法を考え話し合  
い、たくさん意見を交わ  
し、スポハラを防ぐための  
方法を導くことができ、と  
ても意義のある時間にす  
ることができたと感じま  
した。次に小山さなえ先生  
による「地域のスポーツ振  
興について」部活動の地  
域移行とスポーツクラブ  
」をテーマとしたスポー  
ツ基本法と部活動からス  
ポーツクラブへの移行に  
ついて、現状の問題やこれ  
からの課題について、細か  
く説明を聞きました。中学  
校にない部活動の選択、教  
員の部活動における負担  
など、改善に向けて動きは  
ありますが、外部コーチの  
育成や、適正な練習時間、  
本業と指導者の両立など、

課題は少なくありません。  
この研修会を通して、私自  
身もスポーツクラブコー  
チとして、子ども達がやり  
たいスポーツを心置きな  
くできるよう精進してい  
かねなくてはならないと感  
じました。

## 「特別研修会に 参加して」

笛吹支部

間 瀬 靖 子

(バレーボールコーチ)



私はスポーツ少年団で  
子ども達にバレーボール  
の指導をしています。  
ある保護者の方から中  
学校部活動の地域展開に  
ついて質問されましたが  
何も答えられませんでした  
。考えてみると地域展  
開については、新聞やテ  
レビで目にしたことはあ  
りますが、どのように検  
討されていて、どのよう

な方向に進んでいるとい  
う具体的な内容は、ほと  
んど把握していませんで  
した。  
今回、特別研修会に参  
加させていただき、学校  
部活動と地域クラブ活動  
を中心とした現状や課題  
について説明を聞くこと  
ができ、国や県、市の教  
育委員会や競技団体の方  
が大変苦労されているこ  
と、地域展開を進めるた  
めには地域環境の整備を  
する必要があることを  
改めて感じました。  
市町村の取り組みは、  
令和七年度より実行会議  
が開かれ、まとめを行い、  
今後の方向性を示す予定  
とのことですが、目の前  
の子どものために、色々  
な立場の方に正しい情報  
を発信し、理解してもら  
うことが必要だと思いま  
した。  
これからもスポーツ少  
年団指導者として様々な  
研修会に参加していき  
たいと思います。そして、  
部活動改革については良  
い方向に進むように微力  
ながら協力させていただ  
きたいと思いました。

# 南都留支部 活動報告



南都留支部  
九川 恵 太

の南北に市町村が所在するという特性から、地域の実情や慣習の違いもある中、会員が所属していない地域についての活動等の情報交換も行うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

南都留支部では毎年七月に総会を開催し、十一月下旬から十二月上旬までの間において、支部会員スポーツ指導者の資質向上とスポーツ指導者間及び競技団体との情報交換を目的に研修会を開催しています。

近年は「中学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行」をテーマに県内で御活躍されている指導者を講師として招き、支部会員に対し講演を行う形で研修会を開催してきました。

支部との二支部による合同の研修会を十一月末に開催しました。研修会のテーマは前述のとおりですが、令和六年度は、令和五年度までと同様に山梨県内にて活躍される指導者を講師としてお招きするとともに、実際に市で地域連携・移行等の活動されている団体からも講師をお招きし、会員が実際に住んでいる身近な地域での活動内容を講演いただき、中学校部活動の地域連携・移行等に関する現状と課題について会員間で共有しました。二支部による合同研修会ということもあり、同じ郡内という地域ではありますが、山梨県東部

の南北に市町村が所在するという特性から、地域の実情や慣習の違いもある中、会員が所属していない地域についての活動等の情報交換も行うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

少子化による人口減少と高齢化により、今後県内各支部の会員数が減少していくことも考えられますが、支部単独での事業のみでなく、近隣支部との共同による事業の実施等を行いながら、支部としての活動を継続させる必要があります。北都留支部との合同研修会については、令和七年度以降も開催地を交互に受け持つ中で実施する予定となっています。

今後他他の支部との情報交換等を行う中で、支部として所属する会員の資質の向上等の場を提供できるような事業を行ってまいります。



令和 6 年度 北都留支部・南都留支部合同研修会

令和六年度

「山梨県スポーツ指導者協議会表彰」

功労表彰



小濱 圭司 (空手道コーチ)



大石 正夫 (ローイングコーチ)

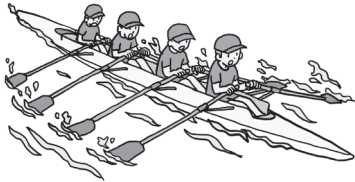
令和六年度

「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰」

永年表彰



大石 正夫 (ローイングコーチ)



山梨県スポーツ指導者協議会  
表彰を受賞して

南都留支部 小濱 圭司

(空手道コーチ)

この度、令和六年度公認スポーツ指導者表彰の受賞にあたり、推薦いただきました南都留支部並びに山梨県スポーツ指導者協議会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

空手の道を志ざし初志貫徹、四十二年が経ちました。私は空手の道を歩み始めた時からいつか必ず指導者となる夢を持って取り組んでいました。現在は町内の大人から子供まで三十名を指導しています。指導するにあたり、大切にしていることは、言葉だけの指導ではなく、指導者が直接動き、手本をしっかりと見せることを意識していきます。

指導においても生徒と共に汗を流し、常に学び続けることが重要であると考えており、生徒が目標を達成した際には指導者になって良かったと心から嬉しく感じます。学校部活動の地域展開に目を向けると山梨県スポーツ指導者協議

会や公認スポーツ指導者の役割は重要であり、部活動における体力や技術の向上には、専門的な指導者が必要となるため、公認スポーツ指導者の活躍の場が広がるのではないかと感じています。実際に私の教え子も中学生になりますが、部活動としての本格的な活動を望んでいます。公認スポーツ指導者が共に連携・団結し、青少年の育成に力を注ぐことが必要であると考えているとともに、青少年のみならず、大人や高齢者も青少年と共に汗を流し、活動する活動の機会があれば、地域のコミュニティの場となり、地域貢献にも繋がると 생각합니다。おわりに、これからも公認スポーツ指導者として、武道家として、学び続けて青少年育成、大人や高齢者の活動の場を作り、スポーツ振興のために活動し、スポーツへの恩返しをしたいと思えます。

日本スポーツ協会公認  
スポーツ指導者表彰を受賞して

ローイング(旧ボート) 競技との出会い

南都留支部 大石 正 夫  
(ローイングコーチ3)

この度、令和六年度日本スポーツ協会指導者表彰を県並びに支部関係者の皆様に推薦いただき、受賞できたことに深く感謝申し上げます。

私は球技に馴染めず、高校に入った際にボート競技と出会ったことをきっかけに今までボート競技に携わってきました。

高校では、インターハイに出場し、監督の素晴らしい指導を受け、入賞することができました。高校卒業後は、ボート部の実業団が河口湖畔精密にあつたことから、入社しボート競技を継続しました。

実業団では、日中は業務を行い、夕方には河口湖へ移動し、湖畔のホテルの灯かりを頼りに先輩方の指導の下、練習に明け暮れていました。

各種大会にも出場し、長野県や愛知県等へ遠征を行うと共に、全日本実業団、全日本選手権、国民体育大会等に出場し、実績を積み上げることが出来ました。

競技に明け暮れた選手生活で得た経験や各県のボート関係者との交流が自

身にとつての財産となりました。

競技生活終盤、先輩から「現役を引退したら、公認コーチの資格を取得し、指導者として道を歩むように。」とアドバイスをもらい、山梨県のボート協会のコーチの一員になり、指導者としての活動を始めました。

かいじ国体に向けた成年男子の強化を任され、今まで経験のない大学選手の獲得に始まり、技術指導の方法等を学びながら強化を図り、天皇杯一位、皇后杯三位を獲得に貢献することが出来ました。その後も河口湖精密ボート部や山梨県ボート協会成年部等の指導を行うとともに高校教員や山梨県ボート協会の方々と組織づくりや選手強化等に協力することが出来ました。

一九九三年から今日まで、吉田高校、北富士工業高校(現富士北稜高校)、河口湖精密の先輩方の指導を受け、山梨県ボート協会の運営等に参加できたことは光栄の至りです。多くの経験を積ませていただいた山梨県ボート協会、日本ボート協会の関係者の皆様にあためて感謝を申し上げます。

スポーツ/文化活動/ボランティア活動

団体活動のための 小さな掛金大きな補償

スポーツ  
安全保険®



スポあんネット  
インターネットでかんたん加入

保険の詳しい内容、資料の請求は、  
ホームページをご覧ください。



令和7年度(2025年度)  
保険期間 令和7年4月1日から  
令和8年3月31日まで

加入区分・掛金(年度初回加入時は4名以上)

加入対象者	補償対象となる団体・グループ活動	加入区分	年間掛金 (1人当たり)	
子ども (中学生以下)	スポーツ活動	A1	800円	
	文化活動 ボランティア活動 地域活動			
大人 (高校生以上)	スポーツ活動(指導・審判を含む) ●A2区分で対象となる活動も補償されます。	C 64歳以下	1,850円	
		B 65歳以上	1,200円	
	文化活動 ボランティア活動 地域活動 準備・片付け・応援・団員への送迎 ●スポーツ活動中の事故は補償の対象外です。	A2	800円	
全年齢	危険度の高いスポーツ(指導・審判を含む)	D	11,000円	
子ども (中学生以下)	ワイドコース (個人活動補償型)	A1 区分の補償となる団体活動に加え、個人活動も対象	AW	1,450円
		C 区分の補償となる団体活動に加え、個人活動も対象	CW 64歳以下	4,850円
		B 区分の補償となる団体活動に加え、個人活動も対象	BW 65歳以上	5,000円
大人 (高校生以上)				

※特別支援学校高等部の生徒を含みます。年間掛金には、制度運営費(10円)が含まれます。  
(注)C・B・CW・BW区分の年齢の判断は「令和7年4月1日」を基準とします。

本広告はスポーツ安全保険の概要を掲載しており、ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらし」及び「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款及び特約書によりますが、ご不明の点については(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)へお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社 ☎0120-233-801  
担当課・公務第2部 文教公務室 (平日9:00~17:00)

〈共同引受保険会社(令和7年4月予定)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日動 日新火災 三井住友海上 AIG損保

公益財団法人スポーツ安全協会  
https://www.sportsanzen.org

令和7年1月作成 24TC-005947

令和6年度 山梨県スポーツ指導者協議会 事業報告

年	月日(曜日)	事業名	会場等	
令和6年		会計監査	令和5年度 会計監査	小瀬管理棟
	4月13日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル		小瀬武道館
	5月17日(金)	第1回執行部会		小瀬管理棟会議室
	5月22日(水)	第1回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	6月29日(土)	令和6年度山梨県スポーツ指導者協議会総会及び 第1回研修会		笛吹市スコレーセンター
	7月19日(金)	第2回執行部会		小瀬管理棟会議室
	7月24日(水)	第2回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	10月13日(日)	第2回研修会		南アルプス市防災交流センター
	11月15日(金)	第3回執行部会		小瀬管理棟会議室
	11月20日(水)	第3回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	11月23日(土)	公認スポーツ指導者等表彰式全国研修会		JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE (オンライン併用)
令和7年	11月25日(月)	特別研修会		小瀬武道館第1会議室
	1月26日(日)	第3回研修会		オンライン開催
	2月14日(金)	第4回執行部会		小瀬管理棟会議室
	2月18日(火)	全国スポーツ指導者連絡会議		オンライン開催
	2月19日(水)	第4回理事会		小瀬武道館第1会議室
	3月下旬	会報第35号発刊		

令和7年度 山梨県スポーツ指導者協議会 事業計画

年	月日(曜日)	事業名	会場等	
令和7年		会計監査	令和6年度 会計監査	小瀬管理棟
	4月12日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル		小瀬武道館
	5月15日(木)	第1回執行部会		小瀬管理棟会議室
	5月21日(水)	第1回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	6月28日(土)	山梨県スポーツ指導者協議会総会及び第1回研修会		小瀬武道館アリーナ
	7月1日(火)	第1回在り方検討会議		小瀬管理棟会議室
	7月17日(木)	第2回執行部会		小瀬管理棟会議室
	7月23日(水)	第2回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	8月~10月	第2回研修会		会場未定※南都留地区予定
	9月9日(火)	第2回在り方検討会議		小瀬管理棟会議室
	11月14日(金)	第3回執行部会		小瀬管理棟会議室
	11月19日(水)	第3回理事会・専門部会		小瀬武道館第1会議室
	12月9日(火)	第3回在り方検討会議		小瀬管理棟会議室
	未定		特別研修会	
日程未定		スポーツ指導者連絡会議		未定
日程未定		公認スポーツ指導者等表彰式全国研修会		未定
令和8年	1月頃	第3回研修会		オンライン開催
	2月13日(金)	第4回執行部会		小瀬管理棟会議室
	2月18日(水)	第4回理事会		小瀬武道館第1会議室
	3月17日(火)	第4回在り方検討会議		小瀬管理棟会議室
	3月下旬	会報第36号発刊		

発行元  
山梨県スポーツ指導者協議会  
〈事務局〉

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町840  
公益財団法人 山梨県スポーツ協会内  
TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599

編集…広報普及部

会報は協議会の活動等を会員の皆様にお伝えするためのもので、スポーツ指導者に関係する情報がありましたら、事務局へ情報を提供してください。

